

ちやんと かわら版 恵庭



北海道文教大学（渡部俊弘学長）は4月1日、恵庭市との密接な連携によるプラットフォーム構築の中核となる研究拠点「地域創造研究センター」を学内に開設しました。センター長に北大公共政策大学院の小磯修二客員教授を招き、総合大学の知見と地方自治

道文教大に地域課題研究の拠点「地域創造研究センター」設立

体の政策力を組み合わせた新たな連携の枠組みを構築。地域の課題解決に向けた政策研究を通して地域活性化を図る狙いです。同センターは地域社会が抱える諸課題に向き合い、大学と自治体、地域社会が連携を図りながら、多様性を活かした創造的な地域政策の提起や実践する拠点を目指しています。大学と市役所による共同研究プロジェクトと情報発信活動を柱に、セ

ンター長以下同大学職員ら4人体制による事務局を配置。事務局には恵庭市から職員1人が派遣予定です。3月24日に同大学本館で行われた記者会見で、渡部学長は「地域に根差した大学として、多くの自治体や企業と連携協定を締結しております。恵庭に知の集積を図り、地域課題の解決に向けた研究成果を世界に発信するセンターにしたい」とあいさつ。原田裕恵庭市長も「恵庭だけではなく、各自治体が抱える課題の解決に向けた場として知見を発信してほしい」と期待を寄せました。



（編集部 伊藤）



恵庭出身の格闘家・上野空大さん K-1プロデビュー戦を勝利で飾る

恵庭市出身で、空手やK-1アマチュア時代に無類の強さを誇った上野空大（くつと）選手（K-1ジム大宮）が、今年3月に東京で開催された立ち格闘技のビッグイベント「K-1 WORLD GP 2023」でプロデビュー。アマチュアMVPの看板を引っさげて乗り込んだ最高峰の

舞台上、試合中の負傷にもひるまず、不屈の精神力と勝負根性で白星スタートを切りました。上野選手は3歳のころから空手を始め、父親の滋也さんが代表を務める「空手道真結氣（しんけい）」に所属。フルコンタクト空手では通算70大会を制覇し、一昨年から挑戦しているK-1ではアマチュア16戦無敗で5大会連続優勝するなど華麗な戦歴を誇ります。今回はプロ初勝利の報告で恵庭市役所や恵庭商工



（編集部 伊藤）

会議所を訪れました。3月12日に行われた初陣の相手は、プロ8戦6勝3KOの実力を誇る竜義選手。格上相手にも臆せず、序盤から激しく攻撃を仕掛ける積極的な試合を展開。試合中に得意技の前蹴りを繰り出した際、あまりの衝撃で自身の左足の指2本を骨折する事故がありながら最後まで戦い、3対0の判定で激戦を制しました。鮮烈のデビュー戦を終



恵庭市立恵み野中学校（丸山真嗣校長）の美術部員が、札幌在住の造形作家・齊藤幹男さんの指導を受けてアート作品の発案から制作まで一貫して手掛ける体験教室「こどもアート体験事業」がこのほど終了。3月31日には幅5m×高さ2m強の巨大壁画が完成し、中庭に展示した作品と記念撮影しながら約半年の活動を振り返りました（写真下）。丸山校長が、以前赴任していた厚田学園（石狩市）時代に「札幌アーツ・イン・スクール事業」で関わりのあった一般社団法人A.I.Sプランニングの漆崇博代表理事に事業実施を打診。昨年11月に漆さんと齊藤さんが同校を訪れ、生徒たちに希望調査をするなど集まった約30の

恵み野中「こどもアート体験事業」美術部員と外部講師が壁面など制作



（編集部 伊藤）

アイディアからユニフォームやPR動画、壁画、黒板アート、キャラクター制作など数点に絞って、コラボアート作品制作に着手しました。部員たちはそれぞれの担当に分かれて作業に没頭。冬休みや試験期間など中断期間を経て2月後半から作業を本格化させ、年度内に全工程を終えました。美術部を代表して、本田莉渚部長は「今までは個人制作中心でしたが、皆で協力して作品づくりに取り組んだことで、仲間同士の絆が深まった」と今回の体験を総括しました。事業全体を振り返り、齊藤さんは「集団制作を通して話し合い、作業を自発的に進めることで部活の活性化につながった」と効果を強調。丸山校長も「コロナ禍など大変な時期に美術部全員で作品を仕上げたことで、恵み野中愛がより高まった」と教え子の成長に目を細めました。

NEW OPEN HOUSE

kofukuの家

千歳市幸福2丁目11-15 Open 10:00~17:00
土日は弊社スタッフがおりますので内覧可能です。
お気軽にご来場ください。平日の内覧は予約制となっております。
お電話又は予約フォームからお待ちしております。

予約フォーム



MAP



Instagram



同時開催中

千歳市富丘3丁目15-1 Open 10:00~17:00
土日は弊社スタッフがおりますのでお気軽にお越しくださいませ。

